

～太田部昔話～

てんぐ岩

太田部昔話

てんぐ岩

むかし、むかし、
おてんぐさまが
おってな、

そのおてんぐさま
が何を考えたのか、
つかやま

塚山のおてんぐさまに
大きな岩を運んで
おった。



ひが暮れると川の底
から、大きな、大
きな岩を一つ

うんとこしょ、
どっこいしょと
かつぎあげてな、
堀切のところまでか
つぎ上げると、

ドスーン

いわ
岩を、
どすーん
ドスーンとおろして
ひとやす
休みした。



村の人々は、ねる
どころではなかつ
たそうだ。

そうわけはだ、
川のほうから登って
来るずしん、ずしん
と腹にしみこむよう
な音、樹木のたおれ
るような音が続いた
上に、はっぱをかけた
たようなすごい音が
聞こえ、おまけに家
がぐらぐらとゆれた
んでな、

みな生きたここち
はせんじやったそ
うな。





おてんぐさまは、塚山に岩
を運び上げると、
また、神流川から二つめを
かつぎ上げたが、

こいつは前のよりずっと大き
な岩で、

さすがのおてんぐさまも前の
二倍も三倍も時間がかかり、

ガッコウ



堀切^{ほりきり}までかつぎ上^あ
げた時^{とき}は、
もう、東^{ひがし}の空^{そら}は白^{しろ}
身^みかけていてな、
岩^{いわ}を松^{まつ}の根^ねもと^{もと}に
ドス^{どす}ンと置^おいた
とき、ちようど
一番^{いちばん}どりが、
「こけこっこー」
と、鳴^ないたのさ。

おてんぐさまはな、
いわ
お
岩をそこへ置いたまま
あわてて山へ帰って行い
しまつたんだ。
やま
かえ





いま
今、ほれ、がっこう学校へ行く途中
ほりき堀切りの道路わきに
おお大きな岩があるじゃろう。
いわそれがそうさ。

いまその岩のそばの松がてんぐ
松でな。

つかやま塚山にやてんぐさまが運んだ岩
ひやくにひやくが百も二百も積み上げて
いま今もあるよ。

てんぐさまだけあって、
えれえことをしたもんだよ。